

来場者に市特産品をPR

～女子プロゴルフ大会が市内で開催～

日本女子プロゴルフ協会と日本テレビ放送網㈱が主催し、つくばみらい市などが後援するワールドレディスチャンピオンシップサロンプラスカップが、5月5日から8日までの4日間、市内の茨城ゴルフ倶楽部で開催されました。大会には、総勢3万4000人を超える大勢の

ギャラリィ（観客）が訪れ、同大会における過去最高のギャラリィ動員数を記録しました。会場内には、「ギャラリィプラザ」が開設され、つくばみらい市観光協会と商工会が出展したブースでは、観光大使が市認証特産品「みらいプレミアム」などをPRしました。

また、JA茨城みなみや地元飲食店も出店し、それぞれ地元農産物や軽食を販売しました。

親子体操&芝生ヨガ

昨年実施して好評だった、ゴルフ場のコースの一部を利用した市民向けの健康イベントも開催されました。5月5日には子どもと親と一緒に楽しめる親子体操、7日には芝生ヨガ教室が



親子体操の様子



特産品のPRを行う観光大使



芝生の上でヨガを楽しむ参加者

それぞれ行われました。参加した皆さんは、きれいに整備されたゴルフ場の芝の感触を楽しみ、気持ちよく汗を流しました。また今年は、市のイメージキャラクター「みらいりんどう」も駆けつけ参加者とふれあいました。

熊本に支援物資を搬送 被災者のケアに保健師も派遣

市では熊本地震に伴う被災者

に対し、避難生活の支援を行なうことを目的として、市内に備蓄した支援物資を熊本市に対し段ボールベッド100個など送りました。

物資はほかに、アルファ米とクラッカーをそれぞれ2000食、お菓子の「ビスコ」1000食、飲料水2リットルと500リットルをそれぞれ1000本、消毒液60本を用意。支援物資の搬送は、市と災害協定を結ぶ県トラック協会常総支部の協力の下、10トトラック1台が用意されました。

4月18日に行った出発式で片庭市長は「当市も東日本大震災や昨年の関東・東北豪雨では多くの自治体や関係機関、地域の皆さまからご支援いただいた。一日も早い被災地の復興を願っ

新伊奈庁舎の開庁式を行いました

昨年8月から建設工事を行っていた新伊奈庁舎がこのほど竣工を迎えました。

5月2日には片庭市長や施工業者である㈱大和リースの北取締役など関係者が出席する中、

「ている」と話しました。

また、5月12日には、熊本県の大津町に当市の石島弘美保健師を派遣しました。この派遣では、5月17日までの間、茨城県や牛久市からの派遣者とともに、現地で避難所の健康管理や在宅避難者の家庭訪問などの支援を行います。



▶10トトラックに支援物資を積み込む職員

開庁式が行われました。開庁式で片庭市長は「この新庁舎は市の新しい顔となり、イメージアップに貢献できると期待している。気持ちを新たに、職員と一丸となってさらなる市民サービスの向上を目指したい」とあいさつ。式の締めくくりには関係者とともにテープカットを行い、新伊奈庁舎の開庁を祝いました。

新伊奈庁舎は、災害時の防災拠点としての機能を備え、庁舎のバリアフリー化も行いました。また、建設にあたってはプレハブ工法を採用し、工期の短縮および経費の削減を図っています。

市では今後、旧庁舎の解体、駐車場などの整備工事を行い、今年度末には敷地を含めた工事が終了する予定です。



テープカットを行う片庭市長と関係者